

みんなのお祭り

おいしいお祭り

はぐるま

11月3日 収穫祭は

晴天なり!! 秋晴れの

空の下、さつまいも畑に

子供たちの声が響きます。

「初めて芋ほりをする

んです、どこを引っ張るん

ですか?」と若いお母さん。

子供の「とったどー」に

カメラを構えてニコニコ

のお父さん。親子のひと時。

アイスクリーム・ピザを

ほおぼりながらはしゃぐ

小学生。太鼓の音・歌声

楽しく、おいしいこと

は幸せですね。

利用者さん(以下仲間と表記)

も思い切り楽しんだ、そんな

一日でした。

ご来場いただいた皆様、

ありがとうございます。

また、来年会いましょう。



当日は、明け方までの雨模様がウソだったかのように晴れわたり、500名を超える方々にお越しいただきました。

今回、広報に関しては、稗原自治会の協力による、自治会回覧と各所への掲示、近隣へのポスティング程度でしたので、ご来場をいただいた皆様は、大部分が農園のご近所さんという嬉しい結果となりました。

子ども達は、はぐるまの仲間たちやボランティアスタッフと一緒にサツマイモ掘り収穫体験や泥んこ広場でのゲーム等を楽しみ、畑の中を駆け回っていました。

また、はぐるまの収穫祭の自慢は何といっても料理のグレードの高さです。シェフたちの絶品料理に喜んでいただいた方も多かったかと思えます。

しかし、備品の不足や目玉企画としていた「農園料理教室」やアーティストの協力による「オリジナルグッズ」「はぐるまカレンダー」の販売の宣伝がいき渡らない等、課題や反省点もありましたが、開催当初からの収穫祭の一番の目的である「仲間たちの暮らす地域の方々との交流」という点に関しては、今回もご支援ご協力をいただいた各団体ボランティアスタッフ・アーティストをはじめとする皆様のおかげで最大限の成果を得ることができました！
この場をお借りして、心より御礼を申し上げます。

次回もはぐるまの仲間たちとたくさんさんの想いを込めた企画を用意して、皆様のお越しをお待ちしております！

御来場ありがとうございました。(福田 真)

No.96

2016年11月18日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会

川崎市多摩区
菅馬場1-18-17
TEL 044-946-1308

マイコフラスマが流行ってる！

そんなニュースを聞き、昨年の感染者多数・発熱・肺炎・数か月もマスクの生活等の記憶がよみがえります。「風邪で済んでしまうことが多いのだけどね、幼児や高齢者など弱い方がかかりやすいですね」と診察した医師が言いました。

とすると、はぐるまの仲間の皆さん体力がなくなつた？ 高齢化つてこういう事？そこで誰もが願う「元気・長生き」ってどうしたらいいのかな・・・をホーム目線で考えてみました。

元気・長生き 健康生活

はぐるまのグループホームは

- 生体リズムに合った生活リズムの確立
- 健康に留意した食事
- 役割を果しあう共同生活

○安心・安定した生活を保障する
事を創立以来30数年引き継がれてきました。若きも・老いもすべてに共通していますので、今後もゆるぎないものとして継続されていくものと思います。

今回は「食」に関しての取り組みを紹介いたします。

調理実習

帰宅後の楽しみは、なんといっても夕食、晩ご飯のメニューは興味津々です。

「好きこそ物の上手なれ」週に1度の調理実習は、食材のことを考えたり・調理器具を使ったりしながら、日常的に知識や生活技能を上達させる良い機会となっております。

カレーのジャガイモ・玉ねぎから、北海道の水害被害を語る仲間がいます。はぐるま工房で採れた葉っぱ物があれば、「僕たちが作りました」と、農園で作業する仲間の鼻が高くなります。（カレーは1番人気なので、調理担当の職員さんは日常では作らない、というバランスも考えます）

生活技能面で見ると、様々な調理器具の操作が必要になります。筆頭は包丁。危険な器具ですが必要不可欠、安全な使い方を取ります。ピュラー・ガスの使用・そして自らの手・指（ちぎる・分ける）たくさんの学びが

あり、仲間たちは結構好きな作業です。

してもらおう生活や、やらされる生活↓自分でしていく生活↓してあげる生活(支えあう)と、受け身でない主体的な、他へ働きかける生活へと転換・発展していくことが、生きる力となつていきます。

食べるのが大好きな仲間たちが、食に自ら積極的にかかわる「調理実習」を通して、しっかり食べる・残さず食べる・楽しんで食べることで、健康な体を維持していけたらよいと思います。

30年続いているこの活動を、仲間たちの変化や特性等によって、やり方を違えながらも様々な方法で受け継いでいくようにします。



調理の手順を図にしてわかりやすく



野菜カレーに入れるエレンギを割く

「これまでも、これからも！」

はぐるまはその創立以来、実践をとおして仲間も職員ともに育ちあつてきました。今でも実践こそが財産だという思いを抱いて日々過ごしています。

さて、障害福祉の世界では「実践と運動は障害福祉を押し上げる両輪である」ということを言われます。この場合の運動とは社会や行政に働きかける運動のことです。

実践が大切であることは明らかですが、その実践はその時代の制度の上で成り立っているといえます。例えば今でいえば我々の運営は「障害者総合支援法」に基づいて行われており、逆にいえば法にのっとっていないければ適正な事業とみなされず、国や自治体からサービスク（補助金）はおりてきません。つまり、実践はその時の法や制度に影響を受けるを得ないのです。だからこそ、その制度に不備があればそれをよりよく変えていかなければなりません。つまりは運動が必要になるのです。

それらは国会で審議されるものですから、簡単に変えることはできません。わたしたち一人ひとりの力は小さいかもしれませんが、

それでもできることはあります。憲法で認められている権利として選挙の投票によって意思を示すことはできます。そしてもう一つは国や地方公共団体に要望を訴えることができる請願権というものがありません。国会議員の紹介という形をとれば国会に要望書を提出することができます。そこに署名を連ねれば多くの国民がその要望について同じ思いでいるということを示すことができます。

はぐるまの理念には「わたしたちは、仲間たちがいつまでも安心して働き・学び・生活できる社会の実現をめざします」とあり、それを表現させるために「同じ志をもつ人々と協力」するとうたっています。同じ方向を目指す仲間として全国組織の「きょうせれん」に加盟し、学びを深めたり署名活動に参加してきました。近年は、集めた署名をもって地元国会議員訪問を行ってねがいを聞いてもらい紹介議員の承諾をお願いしています。

一人ひとりの力は微々たるものかもしれませんが、粘り強くより多くの仲間を広げることです。少しづつではありますが制度を押し上げていくのも事実です。

今年も署名活動を行います。
12月から5月までの長丁場ですが、ぜひ皆さま、署名・募金にご協力よろしくお願ひします！



2014年の国会請願にて。
皆さんの署名はこのようにして議員さんに届けられます。

新プロジェクトスタート！

突然ですが、皆さまは麻生区早野にある「はぐるまハーブ園」をご存知でしょうか？
今から5年前、はぐるま工房の畑が麻生区片平にあつた時代に早野のハーブ園はスタートをしました。

当時、日常的に使用できる大規模な畑を有していなかった、はぐるま工房では、仲間たちが、毎日、力いっぱい働ける規模の畑を借用できる場所はないかと探し回っていました。

そんな折に川崎市からお話をいただいたのが、「ハーブ栽培&活用（福祉農園）モデル事業」といった。

当時は、仲間たちが活躍できる場を獲得する（ことが主な目的でしたが、真夏の日差しにも身も凍える程の寒風にも負けずに働く姿を見てもらえる内に当初の目的以上の成果を上げる事業規模となり、現在ではハーブティーや料理用のハーブの栽培だけに留まらず、クラフトビールや各方面から大好評をいただいている「かわさきハーブソーセージ」の共同開発に携わらせていただいています。

特にハーブソーセージについては、企画段階から3年間という時間はかかってしまいました。が、今後の授産の柱とするべく、授産検討委員会（勉強会）にて将来構想を模索中です！

実は、これまでのハーブ栽培事業は川崎市からの助成金や補助金をいただいて成り立っているのが現状でした。

当初、2年間限定の委託事業として開始をした事業でしたが、仲間たちの働きぶりが高く評価され、委託・補助金事業としては異例の3年間の延長となりました。

これは、早野の生産者組合（農家）さんからの暑さ寒さに負けない仲間たちの働きぶりに対する評価も含まれているとお聞きしています。

今回、皆様にお知らせをさせていただくのは、今年で最終年度を迎える補助金を活用した【はぐるまハーブファーム】総合プロデュース企画となります。

これまでの単年度、単発での製品開発ではなく川崎のハーブの魅力をはぐるまの仲間たちから発信をすることを目標とします。

具体的には、ラベル・パッケージデザインから関連グッズの制作及び商品開発までを手掛け、予算面でのハーブの栽培事業の自立を目指します。

もちろん、はぐるまの力だけでは困難な挑戦となりますので、「かわさき発！」をキャッチフレーズに川崎のまちづくりで活躍している皆様のお力を借りして共同開発を試みます！



市内某所の人気カフェでの企画会議中…
発表をお楽しみに！

先日、市内某所の人気カフェテリアにて第1回目の企画会議を実施いたしました。

仲間たちと関係者の皆様の許可をいただき次第、発表をさせていただきましたので、どんな商品発表になるか、楽しみにお待ちください！

さいぎんの言葉がすばやく

四文字熟語の本を愛読している
大内さんのつぶやき

「尾生之信」びせいのしん

中国の春秋時代、正直者であった尾生が、娘と橋のたもとで会う約束をして待っていた時、突然の大雨で水かさが増したにも関わらず、橋の柱を抱いて待ち続け、ついに溺れ死んでしまった。

信義に厚く約束を固く守るべし

なぜ 好きなのと聞くと
バカ正直なところが好きなんです。

正直者が報われる世だといひです
ね